

令和4年度 第1回 大崎町総合教育会議 会議録

1. 期 日 令和4年8月25日(木)

14時から

2. 場 所 役場庁舎2階応接室

3. 出席者 東町長

穂園教育長

溝口教育委員・二見教育委員・吉田教育委員・小野教育委員

【構成員】 管 理 課 (岡留課長・井元係長)

社会教育課 (鎌田課長)

【事務局】 総 務 課 (上橋課長・渡邊課長補佐・高辻主事)

【町長部局説明者】 SDGs推進協議会 井上様・森川様

4. 会次第

(1) 開会

(2) 町長あいさつ

(3) 協議

1) 環境教材開発の概要について

2) 今後の教育委員会に関する主要施策について

3) その他

(4) 閉会

【協議内容】

(1) 開会・・・総務課長補佐

皆様、お疲れ様です。お時間の方がまいりましたので、ただ今から令和4年度の大崎町総合教育会議を始めさせていただきます。私は総務課の渡邊と申します。よろしくお願いいたします。開会にあたりまして東町長からごあいさつをお願いいたします。

(2) あいさつ・・・東町長

皆様、こんにちは。

丁度、大崎小学校で1時15分から教育長と一緒に、夏休み期間中の「遊びの学校」、NPO ワンパークが主催しております、そちらの閉校式に出席しておりました。夏休み期間中、子供達は、様々な実験に取り組みながら成長したんだらうなあという思いを持ちながら二人とも挨拶をさせていただきました。その後、中央公民館の大ホールで脱炭素会議という、大崎町がゼロ・カーボンシティ宣言というのを4月14日にしたところで全国の自治体も二酸化炭素の排出量とか、酸素の吸収量とか、2050年位を目安に取り組んでいくというところで、大崎町はリサイクルを中心に取り組んでいるので、宣言をしながら脱炭素に向けた取り組みを一步ずつ進めて行こうと係長を中心にして集まって、フィールドワークとして研修会で知識を積んでいく、というのがございました。

今日は、大崎町の現状について聞いて頂きたいと思います。

一つ目は新型コロナウイルスの爆発的感染が続いている状況があります。新型コロナウイルスが発生して3年目を迎えてきており、色々な行事が中止、延期で中々行事が遂行できないところです。最初は脅威的なコロナウイルスということで、マスク着用・手指消毒・三密回避を、国、県の指示に基づき、行政としては放送を通じてお願いをしてここまでやっています。最近になってBA5と言われる、さらに変異した感染力の強いコロナウイルスにより感染拡大が続いている状況があります。

皆様には、マスク着用、手指消毒などお願いしていますが、子供達から40代、50代まで、園児とか、児童生徒、その保護者等の世代が感染するようになってまいりました。何処で発生するか分からない状況があり、段々と言いますか、徐々に高齢者にも感染をする、全国でも高齢者が感染、発症するようになってきて、メディア等で死者数が発表されております。侮れない状況が出てきていると捉えています。

観光・経済を国が回すという点がありますので、国内においても県においても、同一グループ同一テーブルで会食を2時間以内でお願いしますとか、会食中もマスク着用をお願いしますとかこれに基づいて町民の皆様をお願いしていたのですが、このままだと、経済が立ち行かないし、景気回復に繋がらないので、こういった要請が変わってまいりました。対策を守るべき事は守って下さい、なのですが、会食時の基準として設けません、といった形ですが、皆様方守っていらっしゃるのですが、お盆休暇等の交流でさらに爆発的感染が広がっている、今も続いている状況

にあります。ウイルスという全く見えない敵で、誰がいつ、どこで感染するか、分からない状況が続いています。

先日、70歳代の方が感染したと話がありました。事情を聞きましたら「いつ、どこで感染したか全く分からない」と。鼻水が出るようになり、おかしいなと思っていたら喉がもの凄く痛くなり、発熱が1週間程度続き、味覚障害、倦怠感があり、寝ていてもだるく、起きることもできなかったとのことです。

ワクチン接種をしても感染するし、高齢者であるが故にそういう症状が特に出るのかなと感じたところです。ワクチンの2回目、3回目、4回目接種と、より抗体ができるのか、我々高齢者等は4回目接種をした方がいいともありますので、地域の皆様やご家族にできる限り、ワクチン接種の話をお繋ぎ頂けたらありがたいと思います。

皆様に町内の発生状況をお配りいたしました。

1枚目にありますが、7月31日現在であります。上の方が10歳未満から90歳以上までとなっております。上欄が女性、下が男性となっております。かっこ書きが、令和4年4月1日から令和4年7月31日の状況となり、919名となっております。現段階では約1700名位であります。新聞等で発表されておりますが、23町村の中で大崎町が一番高い位置にある、本日の新聞で薩摩町が高い位置にきましたが、人口密度で行くと大崎町は感染者が多いという印象があります。県の報告では、個人情報全く出ないので、町長だから知っているのでは？と連絡が来るが、全く分からないのが現状です。食事の際の困りごとなど、大崎町では、7月1日からフードバンクの制度がありますので、その制度で支援したいと思っておりますが、感染者は全く分からない。毎日6時半に、午後6時現在の感染者の人数を発表してましたが、あまりにも感染者や濃厚接触者が多く、6時現在で報告できない旨、県から連絡がありました。そうであれば、翌日10時に昨日現在の感染者数を一週間ほど前から放送しています。放送を廃止する選択肢もありますが、町民の皆様が状況に関心を持たれているので、今後定点観察などに変更になれば徐々になくなっていくのかもしれないが、当分の間はお知らせをしていく状況が続くだろうと思います。

大崎町のコロナワクチン接種状況速報、8月23日現在であります。65歳以上の対象者数が5194名、1回目の接種者4806名で92.5%でした。2回目の接種者4781名で92.05%でした。3回目の接種者4560名で87.79%、4回目は現在実施中で5194名中の2410名で46.4%、集団接種をしておりますので、徐々に増えていくと思っております。

65歳以上の方の接種はかなり進んでいる状況だにご理解頂いて良いと思います。

64歳以下の対象者数は6203名です。1回目5471名で88.20%、2回目5422名で87.41%、3回目4022名で64.81%、4回目456名で7.35%となっております。1回目、2回目、3回目と接種率が上がっていけばいいなと感じております。

5歳から11歳の欄がありますけど622名で、1回目が144名で23.15%、2回目139名で22.35%、こちらは保護者の中でも接種して良いものかと迷いがあったりとか、伸び悩んでいると

ころでありますけれど、子供達の感染も増えてきていますので、現状をご認識して頂ければなあと思っています。

3枚目の資料をご覧ください。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律案の概要」、こちらは平成27年4月1日からスタートしていますが、再度自分の確認のため配布させて頂きました。概要の中で教育行政の責任の明確化がありますが、教育委員長と教育長を一本化した新たな責任者を置く、教育長を置く、となり委員長制度の廃止となりました。教育長の任期は3年とする、教育委員の任期は4年とする、ということになります。

3月31日までは藤井教育長が務めていましたが退職され、4月1日から穂園教育長に就任して頂いています。

首長は総合教育会議を設ける、となっているので、今までは教育長部局と切り離されていたけれども教育全般のことは行政の首長の責任となっており、首長が総合教育会議を設置して、大綱を定め、それに基づいて教育振興計画を実施する形で進行している。大綱の中で大崎町としては大崎町教育大綱を定め、令和2年度から教育大綱の中で基本目標として、「人間性豊かでたくましく生きる輝く人づくり」というのを基本目標として、これに基づいて委員の皆様が審議されている教育振興基本計画に基づきながら、前教育長であれば、「おおらか・さわやか・きわやかな教育」など、それを伝承されていかれると思いますが、きめ細やかな事を教育委員の皆様にご審議頂いて進めていく形になり、以前とは違って、教育大綱は町長部局が定めて、教育振興基本計画の進め方は教育部局で進めていくことになりました。自分自身も勉強のつもりで、改めて確認させて頂きました。

大崎町の総合計画とか教育基本計画など、一番最初に出てくるのは、人口に関する少子高齢化とか急速に進む少子化、高齢化など人口減少社会の課題をどうやって乗り越えていくのか、町の総合計画の中で、解決策など定めながら取り組んでいくところでもあります。常々考えていることは、人がいないと町の活力が生まれてこない、その年代層が子供達から高齢者まで、特に社会を支えている生産世代の方々が沢山いて活力ある町を支えていくことが望ましい事ですが、中々そのとおりっていない。人口減少社会に進んでいる現状があり、大崎町の大きな課題になっています。

皆様のお手元に、これまでの大崎町のこれまでの人口推移の内訳というものがあります。昭和54年から40年位前からデータをあげました。令和3年度で大崎町の人口が12331名です。出生が66名、亡くなられた方が229名、増減で169名の減、人口増減の一番大きな要因はここにあります。ここ2年位、新型コロナウイルスの影響で全国的に生まれてくる子供が少なくなっておりますが、それにしても大崎町が平成27年度で105名、86、95、77とありますが、100名ほど生まれていた子供達が年々減少し、特に令和3年度は減少して危機的な状況であります。裏を返せば若い世代が少ないため、農業生産、企業生産に従事する人が少なくなっているのも一つの要因になってきていると捉えている。このような状況があるということをご認識して頂けたらと思っております。

社会増減がありますが、令和3年度大崎町の転入が393名で、転出が566名で令和2年度が転入579名、転出596名になっている。令和3年は転出が増えてきていますが、例年転入転出はあまり変わらない状況にあります。地域を担う方であって、その原動力になる子供達が成長して町の活力が生まれてくる。それを考えると、人を増やさないといけないですし、教育にも大きな影響があり、大崎町に小学校が6校、中学校は統廃合で1校でありますけど、人数の一番少ない持留小学校・野方小学校・中沖小学校・菱田小学校・大丸小学校と100名を超える学校ではありませんので、子供達の人数が減少をどうやって克服していくのか、脱却していくのか、私の大きな課題でもあるし、職員も課題と捉え、住宅政策や移住定住など色々な政策をしているところです。外国人が増えて、極端な人口減少はないかもしれないが、児童生徒が少なくなっているのは非常に危惧するところであります。そこは一生懸命努力して学校維持、地域の活性化に一生懸命取り組んでいきたいなと思います。

大崎町の農業産出額342億円で全国17位の農業産出額を誇っています。農業・畜産も活発に行われているが、純粹に大崎町の方が担い手になっている事でもなくて、20代、30代の世代は外国の方が相当頑張っていて生産性を上げて、企業も生産性を上げている。農業は欠かせない事ではありますが、個別の農家や施設園芸に取り組む農家の育成を考えていかなければならないし、今年農業公社設置準備委員会というものを設立いたしました。新規就農者が徐々に現れてきているので、町外・県外の方の呼び込みが十分できる組織づくりをやっていきたいと思います。

最後のページですが、参考までに少子化、それと高齢化が進んで40%を超えている状況ですが、これは令和4年2月末ですが100歳を超えた方、現在は25名おられますが、90代80代・70代以上、人口層が多いのは60代で、次は70代、80代となっています。若くなるにつれて減少傾向にある。各集落においても、少ない状況になってきている。集落の持続可能性を考えると、テコ入れをしながら農村集落を維持できるような環境づくりに取り組んでいかないと難しい状況になっている。

今年は大崎町をスタートしてありますが、住宅政策、大崎町内において住宅を建てられる方に補助とか、色々条件がありますが、1戸310万円程度の補助制度など十分アピールしながら若い人が入ってくれる町、農業を通じて県外から来てくれるような町に取り組みながら課題の解決に向かっていきたいと思っています。また、大崎町で学ぶ子供達が多くなる事を期待している状況であります。

最初に、冒頭の挨拶と、簡単な説明となりましたが、以上で私の挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

(3) 協議・・・総務課長補佐

続きまして協議に入りますが、大崎町総合教育会議の設置要綱第3条の規定により議長を町長にお願いいたします。

議長（町長）

早速協議に入りたいと思いますので、ご協力方よろしく申し上げます。

まず（１）環境教材開発の概要についてでございます。資料で５月２５日付けの南日本新聞の記事を配布しております。これに「持続可能な未来を」のタイトルで、SDGs 推進協議会が取り組んでいる事業の一つに環境学習教材の開発というものがあります。

本日は協議会から井上様にお越し頂いております。井上様の説明の後、皆様からの質疑応答に入りたいと思います。

井上様

自己紹介させていただきます。大崎町 SDGs 推進協議会の、主に企業連携と教育プロジェクトを担当しています井上と申します。よろしく申し上げます。

森川様

同じく協議会で企業連携と教育プロジェクトを担当させていただいてます森川です。本日はよろしくお願ひいたします。

井上様

森川は、昨年４月より大崎町に移住されプロジェクトに携わっております、私は今年１月から大崎町に移住してプロジェクトに関わっています。

簡単ではございますが、環境教材開発の概要について説明させていただきます。

大崎町はリサイクルの取り組みが素晴らしいと評価されている中で、協議会が何をしていくか説明させていただきます。大崎町がリサイクルに取り組んでいく中で可能性として見えてきた部分と課題感がわかってきた。

可能性としては焼却炉を使わないリサイクルシステムを確立して、環境に対しての優位性があるのではないか、というのが分かってきて、ただどのくらいあるのか研究として分かってなく、実際研究してCO2 排出量に優位性があるのかを調べています。これが協議会の主な事業の一つで、もう一方で、課題感として分別に住民の方々が取り組んでいますが、購入するものは他の町と変わらないので、分別しにくいなど大変であったりするので、大企業と連携し、そもそも捨てることを考えて作られた商品を開発できないか、を大崎町と企業と連携して商品開発に携わっています。取り組みを進めるために発足したのが大崎町 SDGs 推進協議会です。サーキュラービレッジと言うビジョンマークを掲げて実現するために活動しておりますが、ここに教育機関、教育プロジェクトが入っております、将来的にサーキュラービレッジ大崎町で先進的なリサイクルを学べるなど、全国や海外から学びに来られるような教育機関にできないかと大きな目標として実現するために活動しています。

そういう中で、昨年協議会が立ち上がって、初めに教材開発と今年の４月から教材開発検討委員会を教育委員会と連携してしていますが、この前提、背景となる想いとして私達はこんな事を考えていますという部分をご説明させていただきます。

先程町長からお話があったとおり、人口減少の中で私達は教育には可能性があると思っています。風越学園という学園を聞いたことがあるかと思いますが、元楽天の副代表が軽井沢で立ち上げた教育機関なのですが、公立ではなく私立なのですが、風越学園は幼・小・中の教育機関を設立したのですが、先進的な教育をしていると話題になり、移住者を呼んでいるんですね。

地域は、教育プロジェクトに「可能性がある」とニュースを見て思い、先進的な取り組みが進めば、場合によっては人口増に寄与できる可能性があるのではないかと私達は考えています。

反面、天才ドラマーと言われる中学生のドラマーなのですが、学校での生きづらさとか、答えを決める学校機関に息苦しさを感じて、日本を去って海外で学びたいと考えている方のインタビュー記事なのですが、一方で可能性の中で、学校の教育が子供達に影響を与える場所なんだと分かるニュースで、課題と可能性の両面がある中で、僕たちはどうやって貢献できるのかを先生方と考えながら教材を開発しています。

先進的な教育と説明させて頂きましたが、何が先進的なのか、何が子供達にとって良いのか、私達も答えを持っているわけでもないで、今大崎町の教材開発に取り組んでいるが、先生方と議論しながら、そもそも、どういった教育が子供達にとって良いのか考えて教材開発を行っています。

概要なのですが、リサイクル率日本一の大崎町という資源がある中で、発展的にSDGsとか世界の環境問題に目を向けるような教材を開発できないかと、大崎町教育委員会と協議会が連携して共催の形で実施しています。大崎町内全7校の先生方に来ていただいて、明日第5回目が開催されるのですが、年10回程、約月1回の開催で集まり議論しております。第4回まではどういう事を行ったのか説明させて頂きます。

森川様

まず月1回開催しておりますが、第1回は5月に開催させて頂きました。まず先生方の自己紹介したあとに、私達だけで教材を作るのではなく、先生方と協力して作るとありますので、どうして先生方と作る必要があるのか？大崎町で必要なのか？どうしてこのタイミングなのか？我々が考えてる理由であったりなど気候変動の現状等交えて説明させて頂きながら、教育現場の最前列にいらっしゃる先生方がSDGsと教育についての考えを「まずは聞く」という会を第1回で開催しました。

第2回ですが、協議会では視察等も受け入れており、大崎町のリサイクル、資源循環の取り組みに関心をお持ちの方が、大崎町のリサイクルはどうやっているのか、県外・海外からご連絡を頂いて、現場を見たいという方にご案内もしています。協議会の一環ですが、今回の委員の方（先生方）が偶然ですが、誰も大崎町在住ではなかったの、リサイクルにあまりご存じなかったの、むしろ子供達の方が詳しいんです、と言う方が多かったので、大崎町での取り組みを通常の視察と同じ様に施設を実際に回ってもらいました。

第3回ですが、見学でどんなことを自分たちが学んだかを振り返ることが大きな目的ですが、人・物・事と三つのカテゴリーに分けて、大崎町で今から教材を作るうえでのアイデアを出していくに当たって、どういう要素をこれからの教育で使っていけそうか、見学で自分達が見た物を分類して沢山書いて頂いて、2行目の授業案にキャリア教育・理科の授業・探求授業などテーマを設けて自分たちが見た事と掛け合わせると、どんな授業ができるのかなど、アイデアを書いて頂きました。

第4回は先月、前回はアイデア、大枠のところなので、そのアイデアを実際の授業にするとしたら、時間構成とか、対象は何学年で、どういう事業スタイルでいくか、を先生方にメモとして書いて頂いたところです。

井上様

第5回は、約半日程お時間取らせてもらいまして、東京で教育プロジェクトに携わっている講師の方をお呼びして半日間教材開発を進めていきます。そこから9月・10月と進んでいって、12月には教材関係と書いてあるのですが、まずは指導案の格子とか、どういう流れで授業を進めていくのかを目標に進めていっております。

教材開発プロジェクトの概要としてはご説明したとおりですが、今回、総合教育会議に出席させていただけるとのことで、私達から皆様にお聞きしたいことがございます。後ほど質疑応答もありますが、もしここで良かったらご発言頂けると嬉しいです。僕達は大きな目標として大崎町で学べる教育プログラムとか機関をつくることも考えているのですが、大崎町に住んでる子供達が、どういう事を考えて、悩みとか、可能性について話を聞いてみたいと思っています。

私達は大崎町に移住して1年とかなので、大崎町で子供達がどう過ごしているのか解像度が高く見えていないのでお聞きしたい、こういう可能性があるのではないかと、こういう悩みがあるのではないかと、もっとこういう取り組みがあると嬉しいなとか、そういうことを伺いたいです。

駆け足にはなってしまったんですが、ありがとうございました。

議長（町長）

ありがとうございました。推進協議会の井上さん、森川さんから説明がありました。

ここに掲げてあるようにどういう考えとか、気付きとか、素晴らしい計画に向かって進んでおりますので、何かご意見等あれば出して頂きたいです。

教育長

大崎町リサイクル率日本一の実態から進んで教材開発、この教材開発の説明の中で、人・物・事が素材だと思えるのですが、それを教材化して授業案を出していく、この案と、ゴールとしてそれぞれの小中学校で一つの授業案を示してやっていこうというものがゴールなのか？或いは、もう少し膨らんで、教育課程がありますので、教育課程にこの時に、この時期に、こういう教材を

使ってこの授業をしましょう、という教育課程を作っていこうとされているのか、大きなゴールの姿、教材開発でどのようなゴールを持っていらしゃるのか一点お聞きしたいです。

井上様

今お聞きした中で全部かと思えます。私達は教育委員会とさせて頂いているのですが、各学校が教材を取り入れるかどうかは選定の及ぶ範囲ではないので、教材を作って提案させて頂きますということです。教育委員会から、校長先生から先生方に「こういう教材ができ上がりました、良ければ活用してみませんか」とご案内させて頂き、来年4月に「ぜび」と言う学校で取り入れて頂く流れになればと思います。取り入れるとなると、主に総合の授業になると思います。

教育長

ゴールは、「それぞれの学校で取り上げられるのであれば実施」して、「本校には合わない、というのであれば実施しない」という感じであるということですね。わかりました、ありがとうございます。

井上様

各学校の実施体制とか、人力的余裕とかで受け入れられるとかが変わってくると思いますが、そこは提案として送らせて頂きます。

小野教育委員

よろしいですか、企業との取り組みについて、前回6月に相互信用金庫さんのSDGsに参加させて頂いたのですが、各企業さんも色々なご意見をお持ちで、取り組みをされてたのがあったんですけど、東京の展示会に行った時に、子供達が大企業さんの取り組みに身近に展示会に行って勉強できる仕組みを見まして、田舎の子供達はそういう機会がなく、大崎町の子供達はリサイクル、分別はできるが、企業がどういう取り組みをしているか、知らないと思うので、企業も一緒になって取り組んだらいいんじゃないでしょうか。

井上様

ありがとうございます。そうですね、大崎町の教育委員会と私達でテスト講師をお呼びはしているのですが、あくまでも個人でお呼びしているので、この取り組みが大きくなっていくとか、今年度は学校教材開発が終わるんですが、来年度以降はどうなるのかは流れ次第になると思います。アドバイスのなところを大企業に係わって頂くとか、もしくは教材を作ってみて、その教材の中で、児童たちが発表する機会をある程度想定しているのですが、発表の機会を地域外の大人が聴いているところですか、東京の企業向けに発表してみるとか、で外部と係わり・接点を増やしていくのも良いのではないかと。

議長（町長）

他に意見はございませんか？

教育長

今後、教材開発、授業案もできていくと思うんですが、先程も企業の意見も出されたり、子供達がどう主体的に動いて行くか、大崎町は27品目のごみの分別とかできる、学校でもある程度取り組んだりとか、衛生自治会で取り組んだりとかありますので、ぜひ子供達が主体的になって、それぞれ感じている事とかSDGs推進協議会の報告会なりで、子供達が学校ではこんな取り組みをしています、子供会では地域ではこんな取り組みをしています、こういう風に思ってます、とか環境に対する子供達の想いを伝えていければ、それを大人たちも分かち合っていければ、今の子供達はそんな事を思っているのか、考えているのかという報告会、発表会などの場を拡充していけるような仕組みが広がって行けばいいのかなと考えています。

この後、教育委員会の方で、図説ふるさと大崎学のテキストを作っていこうとしていますが、人・物・事を入れながら授業案の提案をし、そのような事を紹介できていたらありがたいです。

大崎に住んで大崎を誇りに思う子供達をSDGsとしての取り組みができていたらありがたいと思っている。

井上様

まさに子供達、環境ネイティブと呼んでいるいるのですが、環境の取り組みが当たり前に育ってきた子供達が、私達移住者と感覚的に全く違うので、そういう子供達がSDGsを発信していくと凄くインパクトがあると思うので、そういう部分で連携していければ良いと思います。

溝口教育委員

企業との取り組みの話がありましたけど、先程町長からありましたが、大崎町における農業生産高が高いとお話がありましたけど、そういう観点から、農業法人とか、農業されている方にも循環型社会・農業にも生かして頂ければいいのかなと。そのような活動を通じて取り組みをされれば農業の発展にも繋がるのかなというのを考えました。

井上様

私が大崎町に来る前の話なのですが、フードハブブルーで農業でフードロスになってしまう野菜を食べるプログラムについてご紹介を。

森川様

TABETEというアプリが都会でメインで使われているのですが、皆様ご存じでしょうか？お店とかで賞味期限の切れた野菜など、アプリ上に出てきてそれを消費者が選んで、安い価格で購入しに行くというアプリの運営をCOCOONINGと連携しています。

もし大崎町で使ったらどうなるのか、について大崎町で実証実験をしてみました、関東圏ではお店から出たフードロスと言われる余り物を使っているのですが、そうではなく大崎町では、町長がおっしゃっていた農業が盛んなので、農家さんから出る圃場とかにある、まだ食べられるものとかをアプリ上に表示して、みんながそれを農家さんと直接交渉して安い価格で購入する、という実証実験を行いました。先程のビジョンマップの上の方に農業、畜産、漁業含めて書いてありまして、大崎町のリサイクルシステムがどれくらい環境に良いのかというものを数値化する研究を既に行っているのですが、まだ明確な予定はないのですが、農業、漁業など大崎町の根幹産業なので、研究開発を行っていききたいというビジョンとして考えて実証実験をしている。

議長（町長）

他に意見はございませんか？

色々なご意見を出して頂いてありがとうございます。

SDGs は 2030 年を目標に進めていきたいと思います。先程、小野委員さんから企業との連携、企業のこととかお話がありました。日経新聞等読んでいますと、それぞれの企業も 2030 年に向けて活発に取り組んでいる。そういう中で ESG とか色々ありますが、子供達にその折に触れて、社会学習の形で触れて教えていくのが大切と考えながらご意見を伺っておりました。

先程もお話しさせて頂いたのですが、中央公民館の大ホールで脱炭素に向けた会議をしておりますけど、そこにも著名な方が講師を務めております。大崎町にこういう推進協議会の方々を中心に、色々な方々が講師陣として来ていただくようになりました。そういった機会を捉えながら、子供達には子供達の教え方があるのですが、今のこれからの地球温暖化防止、脱炭素社会に向けて取り組んでいく中で、企業等がどう役割を果たして行くのか、教えていくことがとても大切なことだと思いました。その中で工夫をしながら、どういう形で実現できるのか取り組んでいきたいと思えます。

農業分野で大崎町の農業産出額が高いというのは、やはりジャパンファームがありまして、ブロイラーの生産が大きいというのが要因です。その他、大崎町は鹿児島県でも最たる土地利用型の農業先進地でもありますので、水田農業にしても畑作農業にしても、これから脱炭素とか農業に取り組む中で、肥料とかを抑制するとか、そういった事もやっていかなければならないなど、大きな課題がありますので、折に触れて発表できるとか、行動・周知できるのか、持続可能な地球環境を守るために我々が取り組んで行けるのか、そういった点をこのような場で提示して意見交換していくのが大切な事だろうと思えます。

農業は炭素を多く排出したり、畜産においても牛のゲップでも炭素が排出されたり、色々な課題があります。そういった事も捉えながら専門家の意見を聞きながら、皆で関係する人が認識しながら進められたらと思えます。

次に入りたいと思えます。今後の教育委員会に関する主要政策についてでございます。令和 4 年 4 月から穂園新教育長が就任され、教育委員会の執行体制が変わったところでございます。こ

の協議事項については、新教育長 1 期目にあたりまして今後の主要政策をどのように進めて行くのかその道筋、いわゆるロードマップについて説明していただこうと考えております。

よろしく申し上げます。

教育長

少し時間を頂いて、教育委員会の主要施策について説明をスライドで説明させていただきま
す。まずご確認ですが、町長からありましたが、ロードマップについてはご覧いただきたいと思
います。今後の主要施策につきましては、町の総合計画、町長の公約、大崎町の教育振興基本計
画及び大崎町教育のグランドデザインなど踏まえながら取り組んでおります。

総合計画につきましては重点目標が 4 点ございます。教育に関わる所は重点目標 3 の、子ども
の夢を育む町をつくる、ここが教育に関わる部分です。具体的な今後の施策ですが、3-1-1 夢
や希望応援プロジェクトで書いてありますが、赤字の所が新規や継続発展させながら取り組んで
いこうと考えているところでございます。

先程 SDGs 協議会の方でお話もありましたが、ふるさと大崎学、このようなテキストで人・物・
事がありましたが、地理であるとか、大崎町の歴史や史跡、自然、産業、リサイクル、スポー
ツ、人物、そういう物をキーワードにテキストみたいな図で分かりやすいものを編集していこう
と考えているところです。また、人材リスト、これまでも学校応援団がありまして、色々な地域
の方、ここにはこんな人が存在しますよ、というリストが社会教育課にあるんですが、さらにそ
れを整理しながら、地域と学校の共同活動やコミュニティスクールがありますので、その一体化
を進めていこうと思っています。

3-2-1 大崎学推進事業、これはふるさと大崎学を研修していく取り組みで、同時にしてい
たいと思っています。学力向上プロジェクトの推進ということで、下のほうにあります、横文
字で分かりにくいですが、NRT という全国学力標準検査です。この NRT における UA、アンダーア
チーバーというのがありますが、これは、知能がそれぞれ子供達は違いますが、知能相応の学力
をどう身に付けるかが課題だと、学校教育の一番の課題だと思います。知能はあるのに、学力が
付いていけない子供をアンダーアチーバーと言っています。知能相応の学力を付けてあげる、
アンダーアチーバーの割合を減らしてあげるのが一番大事だと思っています。

全国学力調査ですが、これを全国平均には持っていきたい。鹿児島学習定着度調査、県の調査
がありますけど、これも県平均以上に持っていこうかと。夏休みに学力アップセミナーが中学 3
年生にありますが、教職をめざす鹿児島大学の学生とか、体育大学生の協力を得ながらやってい
けたらと思っています。

先程の SDGs 推進協議会の事業、これとともにありますのがユネスコスクール国連の教育技術の
機関で、ユネスコスクールというものがあるのですが、大崎町は環境学習の一番「持ってこい」
のところじゃないかと思っていますので、国連とも連携を取りながら、SDGs 推進協議会にもマ
ンパワー、人がいらっしやいますので、認定ができるように取り組んで行ければ、ますます子供

達も「環境学習の町大崎町」というような十分な絵になっていくのかなと思います。先程あった教材開発は今取り組んでいるところでございます

人材育成事業、地域づくりの主張者が新聞等で良くご案内のとおり、中学校の部活動をなくして地域に移行していきましようという事で、来年度から3年間、土日に限って地域の指導者で地域に返していこうとの動きがございます。今後色々な課題がありますので、29日に中学校、社会教育課、管理課と三者で協議をしようかなと思っています。今後そのような取り組みもございません。

国際交流事業、これについては私も北海道の東川町に訪問させていただきました。日本語学校もあり、留学生が1年間日本語を学んでおります。その方々は英語も堪能で、大崎町はALTが1人で、そういう留学生がもし大崎町でも就労したい方が行きたいというのであれば、それぞれの学校で英語の指導者、補助員の形で付いて頂だけたりできたらいいなと思います。また、小学校区に住んで頂いて、地域の人達、子供達と連携をできたら良いかなとも思っています。

技能実習生の方々350~60名位でしょうか、いらっしゃると聞いておりますので、ベトナムや中国の方、海外の方との交流、タウンタウン共生、タウン化理解協力というのも進めていければ良いかなと思っております。

文化行政推進につきましては、町史編纂、これが令和8年度が町政施行90周年に合わせて町史編纂をしていこうと動いておりますので進めていければと考えています。

3-2-6の子供読書の推進事業で、学校図書館と地域図書館を併用して行こうと。地域の方々が学校図書館に来て一般図書も借りられるようなもの、高齢者の方々がより近くの、例えば野方の方々が町立図書館への来館は中々遠いのかな、という気持ちもありますので、身近な学校に行って、そこで一般図書も借りられるように、併用できるような利用しやすい図書館を作れたら良いなと思って今進めているところであります。町立図書館の来館者、貸出者を増やしていこうと思っております。

町長の公約では、教育環境の充実ということで、色々な学カアップセミナーなど実施しておりますが、これを充実していきたいし、給食費軽減で本年度軽減されたところですが、今後の状況例えば、保護者の経済状況、財政問題、色々な課題がある中で今後検討していきたいと思っております。

児童生徒の国内外交流の推進で、東川町を訪問させてもらいましたが、南国と北国との違いがあります。例えば、南の子供達が冬に行って、そこにはスキー場もありますので、スキーの体験をする。また、東川から夏に南国に来て、夏の暑さ、海のない町ですので、海を見せるとか、プールの活動をするとか、交流ができて、それぞれの土地の違いとか、畑が広く300ha位が丘の上

に広がっている状況を見せるとか、交流ができれば良いかなと思います。また台湾やインドネシア、アメリカのシアトルとかの交流ができればよいなと思います。

生涯学習環境の充実ということで、生涯学習センターの設立、これまでは学校教育で学んだ知識が生かされて、時代が色々変わってくれば、その都度学び直しをしていかなければならない、リカレント教育と言われていますが、いつでも、どこでも、誰でも、どんな時でも、ICT を利用しながら学習ができますよ、と情報発信をしていける生涯学習センターを設立できたらいいなと思っています。詳しくは、教育振興基本計画がございますし、グランドデザインがありますので、ご覧くださればありがたいかなと思います。

グランドデザインの中で4項目作っております。一つ目がICT活用で、学びと情報を繋ぐ、学校でもひとり1台タブレットが整備されてきました。これと色々な学びを繋げていくような事で、これからの社会はICTなしでは生きていけないのかなと思い、いつでも道具として使えるように子供達ができればと思っております。

幼・保・小・中の連携というようなことで、幼・保は福祉部局ですが、小・中との接続をうまく図れるように連携を取って、学力面、体力面、生活面、一人一人の子供達の成長の様子を繋げていきたい、幼・保から小学生・中学生まで繋げていけるような活動をしたいと思います。中学校では、学びの共同体の活動をしています。ところが、小学校の中では、中学校の学びの共同体の取り組みが薄いような気がします。ですので、小学校のうちからどんな事をしていけば良いのか、横串を入れながら、子供達の連携、学校と家庭、コミュニティースクール、地域学校協働活動など一体化して、地域の方々も学校の子供達の様子を見ていただくような繋ぎ、人生100年を繋ぐ生涯学習、生涯スポーツを考えております。

その他の課題として、学校教育指導監配置は、学校指導主事が1名配置されておりますが、年度初めに入院があったり、長期の休みがあったりで中々指導主事業務が滞ったりとあります。ですので、校長退職者、OBを会計年度任用職員といった形で配置していただき、業務ができれば良いと思います。

地方教育アドバイザーとして、昨日、文部科学省から2名アドバイザーがおりましたので、この方が派遣されておりますので、この制度を活用して中央の取り組みをアドバイス頂きたいと思っております。

教育大綱、教育振興基本計画、令和6年度で教育大綱と現基本計画が終わりますので、6年度中には次期教育大綱、基本計画を策定していかなければならないと思っております。国体は来年9月14日から19日までビーチバレーがあります。また、デモで公開競技でドッジボールが7月2日にあります。そういう課題も考えております。

昨日来られたアドバイザー関係で、今後の課題を4点ほど、取り組みのアドバイスをくださいとお願いしたのが次の4点です。

児童生徒の国内外交流のため、受け入れるとなると学校はどういう留学生を受け入れるか、学校はどういう体制づくりをするのか、日本語教育をどうするのか、留学生の支援はどうか、教育課程はどうか、のアドバイスが1点目。

2点目は学校と家庭・地域を繋ぐために、コミュニティスクール、地域学校協働活動の一体化をどのように進めていけば良いのか、幼・保・小・中を繋ぐ、どうやって学力・生活・体力など個人シートを繋いでいけば良いのか、シートの良いものはないのか、アドバイス下さいと。

最後、SDGs推進協議会でありました、ユネスコスクールを受けるために、条件整備が必要かと思うが、アドバイスをお願いしたところでございます。

以上、今後の教育行政の進むべき方向性について、現段階での案でございました。以上で終わります。

議長（町長）

ありがとうございました。教育長からロードマップについての説明がありましたが質問等その他、何かありませんか。

二見教育委員

ユネスコスクールとは、指定を受けた場合、どのような形、どんな内容なののでしょうか。

教育長

県内でも少なく、阿久根市の大川小・中学校であるくらいで、鹿児島に情報が少なく、昨日も文部科学省アドバイザーにお話をし、国連規模のスクールですので、ハードル、条件がどんなものなのか。大きく言えば、環境教育、環境学習です。大崎町はリサイクル率がありますので、これを使いながら、絡めながらできればよいのかと思います。ESDも持続可能な教育ですので、SDGsがめざすところが一緒ですので、SDGsのための教育をどうできるのか、今後のハードル、課題についてのアドバイスを頂きながら進めていければ良いのかなと思います。

議長（町長）

リサイクルで色々取り組みをしているので、教育長からユネスコスクールのことが出たのですが、先般、国連で放映されて、世界に発信されてる状況もありますので、こういった取り組みに対して色んな状況が発生している。教育長の東川町や、台湾、アメリカ、インドネシアとの交流を進めていきたいとか、東川町とはある程度は進んでいる状況ではありますが、話はしている状況です。

同時に、やはりコロナが重なって、たくさん行けないという状況ではありますが、ふるさと納税で環境の町ということで頂いておりますので、中学校の何年生が全員行けるのか、国外・国内であったりとか、東川町、台湾であったり実現できたら良いなと思っています。コロナの状況ですが、実現したいという思いで教育長や職員にも話しをしたりしております。台湾の方も交流先をアタックしてもらっている状況ですが、文化を知るという面に対話も必要なのかなと実現できるようにしていきたいと思います。

議長（町長）

時間も来たようですが、何かありますか。

ないようなので協議については終わらせて頂きます。

総務課長補佐

その他何もございませんでしたので、これもちまして、総合教育会議を終了いたします。長時間ありがとうございました。